13
3210

山東京傳作 上

蝶鴉曽我佛

歌川國貞畫

河内屋源七板

へ13
3210

山東京傳作

蝶鴉曽我俤 下編

歌川國直画

河内屋源七板

昭和十年
七月二日

大磯之丹前
化粧坂編笠

蝶鴉曽我俤

名人の小刀ふりわげさ。身がうの形代ら。傘ふたる小人形。
袖とちぐりの五月雨へわる夜ひそふ月さよぶまろふかひろ迷ひ
子乃。鉦大鼓。そのわつ〳〵のり物も友禅染乃てよちどろ。そ乃夜も
寒ー虎が石乃。おりき忠義乃對面ら。たくらの山ふいりるぐ〳〵手と
むすーくいかさどとちろちぐくの花よりが蕚子ふハッといろ〳〵の
紅梅千々のわつ〳〵ん。かの銀公が袈裟ころも。九条の里の七手ひ〳〵
ぐ〳〵ひ乃ゆ〳〵時雨ぐふらふてりふへぐ〳〵ん〳〵たそふいろ〳〵ふ〳〵ふ〳〵

此草紙の三ンの切り。

全六冊

文化十二年乙亥秋稿成
十三年丙子新草紙

醒齋
山東京傳識

江戸富沢町 河内屋源七板

古今集
工藤ハ末・祐成ハ且・
時宗ハ丑・浄・天地人
春月の吉例日月の燈・
江海の油風雷の通神楽・
古今来曽我の脚ク巴・

朝比奈れ樂屋へ入り暑さ

晋其角

うつくしき髪あり。
もつてこらるるかわら勇力
関羽てれくしの怒れるごとき。○都九条里遊君
蚰とやうせ笑ふ〳〵死も
少将もよくかつく地獄とめぐりて。三浦屋の庁見太夫
閻魔ゐ抹香と神〻せ極楽あそびて。
地獄ゐ横鼻神とかぐつと鬼千人乎如何

布団さそ
ひじ山の花見
九条れ
里乃
三浦屋の
片貝太夫が
小そて幕ハ
花ゐかり
由利之助竜音の
曽我部左衛門
曽我部の
家臣
鬼王
晋吾
兵衛
子團三
助

魂
白鬼
其角ゞ名句と
たゝへて
此一段と
つゞふえ

洛外八幡村の人形細工人
ひぐり
陳五郎
月小夜
陳五郎女房
京都
陳五郎娘
右二首 いろは堂行彩

陳
張

堂

京傳店
白牡丹
一色代
一色百文十二文
國貞画

庁
曽
堂

山東京傳作
京傳店
直画

▲ちゑのさくのしんとまるのこふとうのなを
あきちやんのゆくへとなげぬるかたを

月
陳
御人形細工
左り
陳五郎
赤

月

まえのつゞき

まんのつゞき

以上十張國直畫

●醒齋京傳隨筆　骨董集　大本

●ふるきむかしれる成ふるくさのくさのの古貨をあまたこゝにえんぐわつし紀古圖

●上編前二冊

去成十二月賣出

おなじく同後二冊

南玄のみ

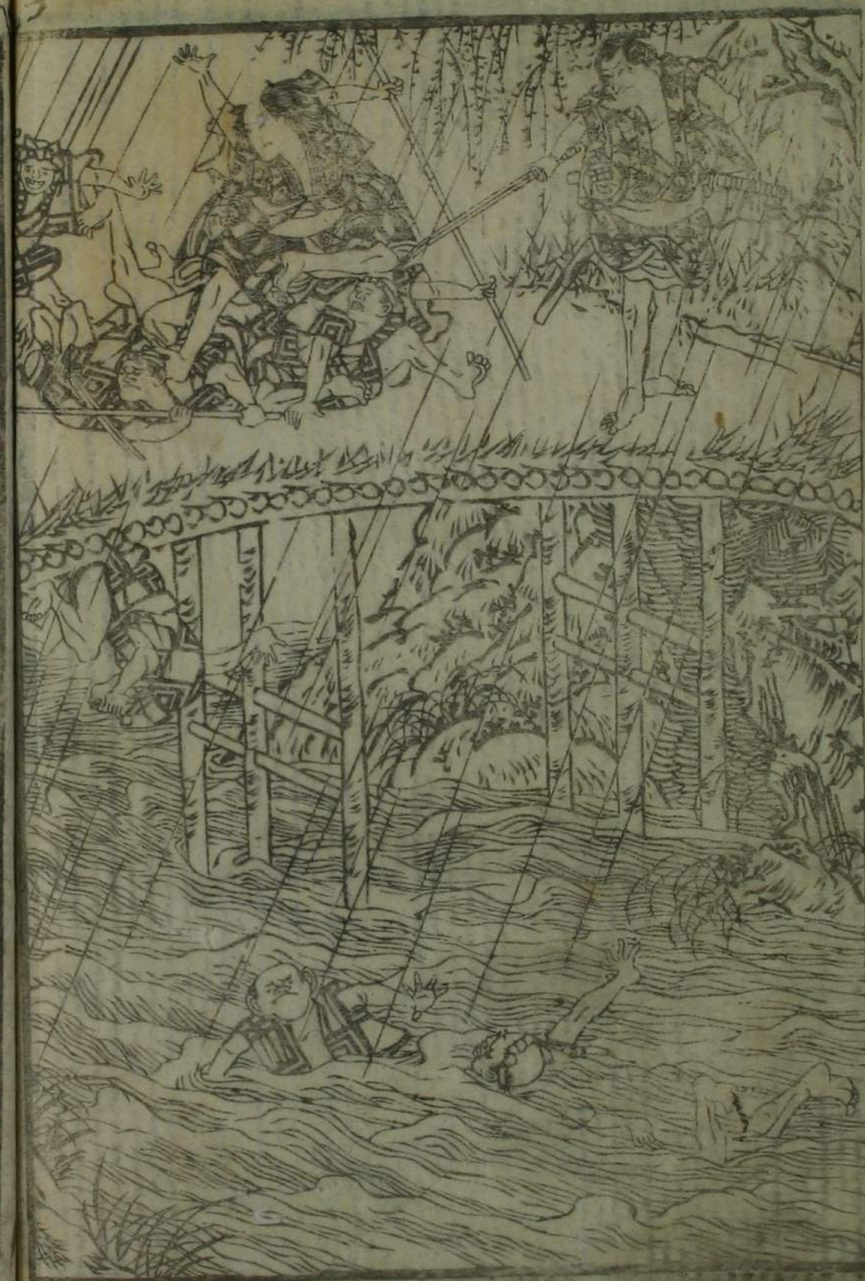
やい三へん四へん五へん

進く出板仕

▲二のこや
そんちゃんさまの
しのくち
蛙はたの
いくくそ
こまつぐしゅつと
らぐくいと
やとし
ぬかが
いちこと

ひろのちゃ
ちゃうちゃくして
わいろをいづる
男ざとのわさ分
ぶきをえ　うはて
えまれるぢんみつ
まどどうをえとの
うみゆ　ゆ
せろくと
くろ　ゆ　ゆ
まくくれ
そくくのさのん
さゆくとうをとも
さるのゆくへと
ゆうてゆをを
をこうりてさびれてゆの
しるぶねにねそわさる西
いまをまんーゆんゆ　ゆ
めどさゆーてこれけちやりこれい
まきーくうんびをうろこーどしてて
わやーひとしひちびめ川のゆうくいわろて
ちゆ入とーくんとちるゆくーとろるどゆわ
きぞんが分　ゆるいぞへのりのがうにてやーいい
まにしまゆへなげいをんとーてちゃーびるどゆ
ねるゆのちねにーぶゆりーしん天のわえゆの西
いんりとくとこねりーちやーどんてろくいゆ　ゆ
まゆつみてをざとろく　ろまゆれやくえ　みいろろ

▲妖怪の
ろくにてこゆゆ



柘
陳
ちめ

吉

山東京傳作
右五張
歌川國芳画
徳祝
書筆